

自然と文化科 夏季科内研修会 活動記録

日時	2025年8月22日(金) 10:00~15:00	担当者
場所	高槻市生涯学習センター 多目的ホール	堂下登美子
備考	参加者数 1班 21名 2班 20名 3班 18名 4班 19名 合計 78名	

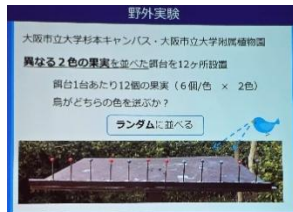
午前の部

1. 講演のテーマ:「植物と鳥類の種子散布共生系」
2. 講師: 大阪公立大学大学院理学研究科生物学専攻・教授

大阪公立大学附属植物園園長

名波 哲氏

3. 講演要旨 これまでの研究から明らかになったこと



・植物の果実の色には、赤系と黒系が多い。・鳥には果実の色に対する嗜好性がある。・果実の色の嗜好性は鳥によって異なり、異なる色の餌を食べて共存している可能性がある。・鳥は餌を認知する際に紫外線を利用する。

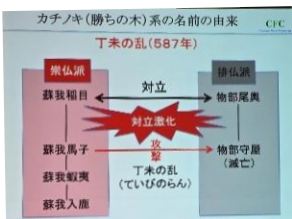
植物と動物の助け合い（共生系） 鳥類の役割…植食性昆虫の捕食により樹木個体の生存、花粉散布で種子生産の成功、種子散布により樹木の子の分散
樹木の役割…果実、花蜜、樹液の提供、営巣場所の提供、営巣資源の提供
春日原生林における樹木と鳥類の助け合いを確認する観察。

生態系の破壊的作用・攪乱 森林の樹木はほかの生き物に様々なものを提供している。大きな種子を持つ植物は大きな動物に種子散布を依存している。

自然攪乱による物理的破壊のお陰で育つ樹木があり、そこを訪れる動物もいる。一方、人為攪乱による物理的破壊は両者の共存が成り立たなくなり、どちらも減少してしまう。

午後の部

1. 講演のテーマ:「植物観察の楽しみ～身近な植物から覗く歴史の一コマ」
2. 講師: 森林インストラクター 荻谷直樹氏



3. 講演要旨 ・ヌルデ 丁未の乱(厩戸王) ヌルデには現存する百種以上の地方名があると言われている。主な方言名を大きく分けるとヌルデ系、フシノキ系、シオノキ系、ゴマギ系、カチノキ系。ヌルデ系～ゴマギ系までは人々の生活と深くかかわってきた木であることを意味しているのではないかと考えられる。カチノキ(勝ちの木)系の名前の由来は飛鳥時代の崇徳派の蘇我氏と排徳派の物部氏の戦いから来ていると考えられる。物部氏側の厩戸王は戦勝祈願としてヌルデで四天王像を作り、戦勝した。



・ケヤキ 乙巳の変(中大兄皇子) 清水寺の懸造にケヤキが使用されているように、ケヤキは硬くて丈夫な樹である。古くは槻と言われ高槻市の名前の由来ともなっている。街路樹としても利用され、人が大きく手を挙げた様子の樹形がイメージされる。ところが、古事記では「よく茂った櫟の枝は、上の枝は天を覆い、中の枝は東国を覆い、下の枝は西国を覆っている。」の様に書かれている。もともと上図のような樹形であったのではと考えられる。日本書紀によると飛鳥寺西側に大きな槻木が茂った広場があり、そこは乙巳の変を成し遂げた中大兄皇子と中臣鎌足が初めて出会った場所と書かれている。ケヤキは古代大和王朝の聖樹だったかも。

感想: どちらの方も粘り強い地道な努力で成果を挙げられていることに感心させられた。

